

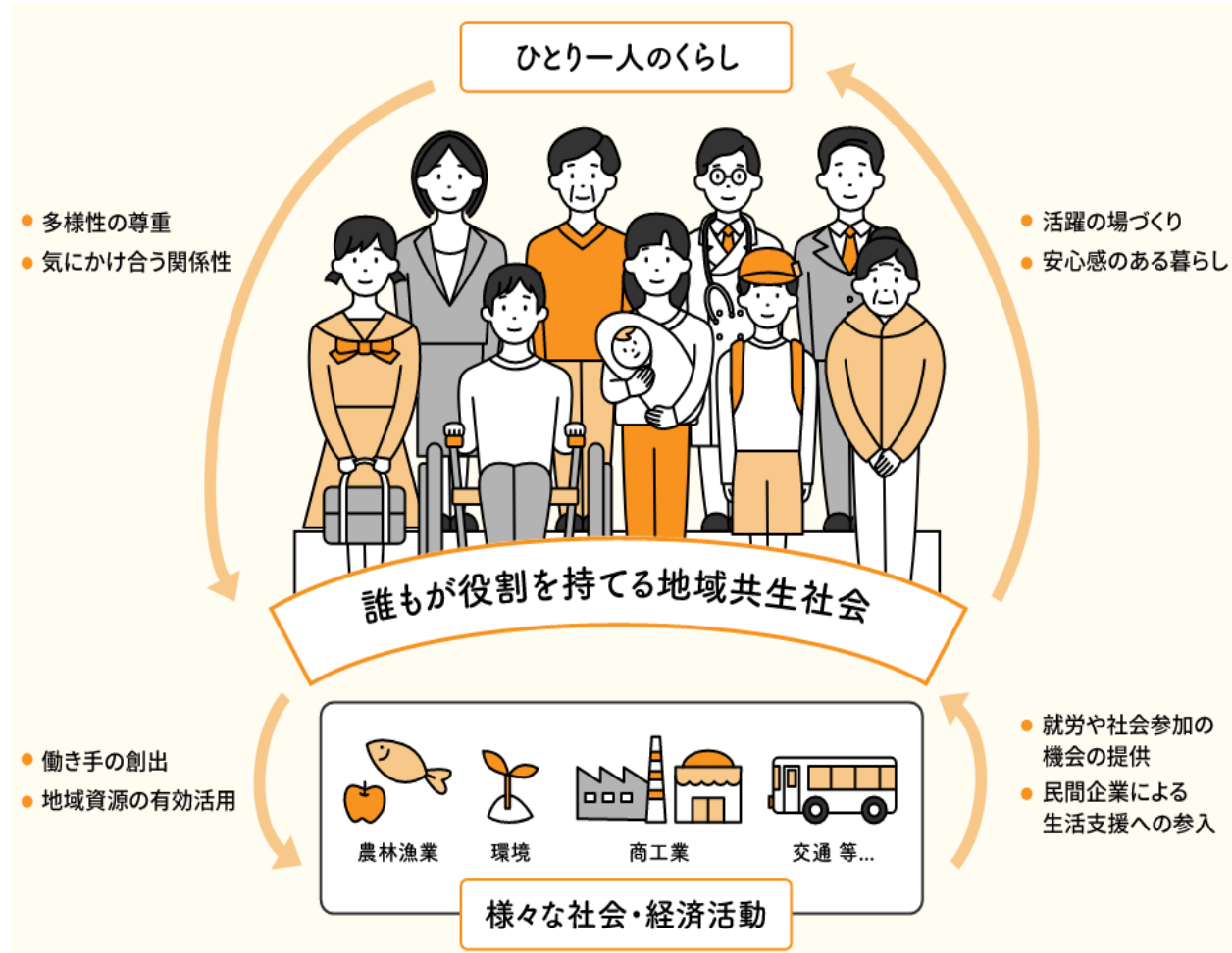
「いわきの地域共生社会が目指すところ」

こんにちは！いわき市保健福祉課・地域共生社会推進係です。

みなさんは、「地域共生社会」という言葉を耳にしたことはありますか？

10年近く前に国の政策に盛り込まれた言葉で、全国で取り組みが進められていますが、福祉業界でなければ、知らない・聞いたことがない方が多いのではないのでしょうか？

地域共生社会は、「制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」を指しています。



なぜ、「地域共生社会」が必要なのでしょう？

いわき市の人口を見てみましょう。1998年に人口のピークを迎えたいわき市は、今年8月の人口はピーク時から5万人減っており、15年後にはさらに6万人減り、2060年にはピーク時の半分以下になってしまうと推計されています。時間が経過すれば、そりゃ減るだろ！と思うかもしれませんが、これを市内13地区で表すと、2060年までに11地区の人口がゼロとなり、平・勿来の2地区の人口規模まで減ってしまいます。



1998年
ピーク！

2025年
約5万人減

四倉+遠野+小川+好間+三和
+田人+川前+久之浜大久
=約4.5万人

2040年
約6万人減

常磐+内郷
=約5.4万人

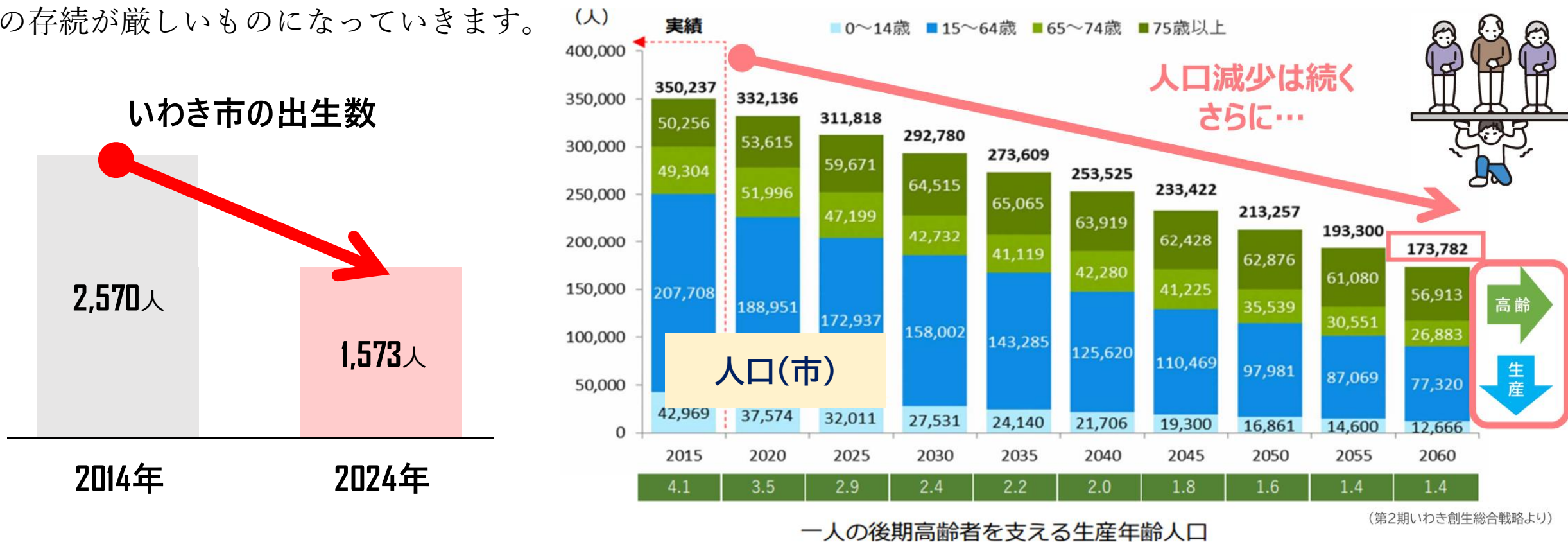
2060年
約8万人減

小名浜=約7.9万人

人口減少も何が問題かという点、子どもや働く世代の人口は減少していくのに、高齢者の人口にはさほど変化がない状態となっていることです。高齢化率が高いまま、人口減少していくことになります。

また、いわき市の出生数は毎年最低を更新しており、2024年の出生数は過去最低の1,573人でした。10年前の2014年の出生数が2,570人なので、この10年で生まれてくる子どもの数が1,000人減っています。

こうした状況が続くと、支える側の減少により、働く人が減少し、税収も減少、支えられる側が増加することで、社会保障費が増えていくことになるなど、経済・社会に加え、行政の活力も低下していき、地域そのものの存続が厳しいものになっていきます。



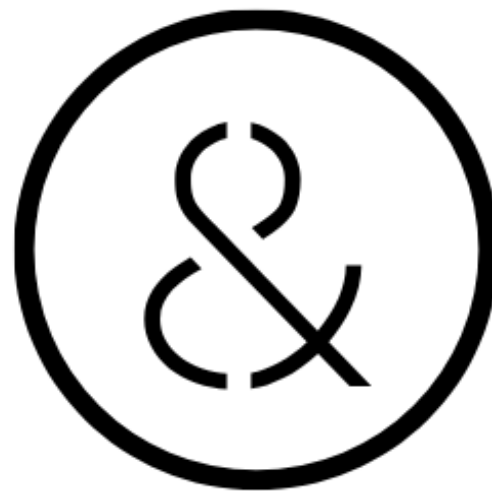
こうした状況でも、1人ひとりが幸せを感じられるウェルビーイングな社会を目指し、世代や分野を超えて・つながり、地域共生社会を推進をしていく市民1人ひとりの意識・行動が重要になってきます。

いわき市では、地域共生社会の実現に向けた体制として、行政をはじめとした24団体が連携した会議「いわき市地域共生社会推進会議：IWAKI & MEETING」を設置し、今年7月22日に第1回会議を開催しました。

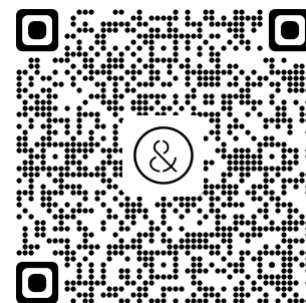
この会議では、地域共生社会の市民1人ひとりの行動につながるアクションプランや地域福祉を推進するための計画などについて話し合いが進められていきます。

いわきの地域共生社会では、地域共生のアクションとして、1人ひとりが「これならできる」「こうしてもらいたい」を今より少し意識してみたり、それぞれの専門性・資源を活用したり整えたり、担当ではなくても横にある制度・分野を少し意識してみたり、こうした、みんなの+1歩のアクションを“&”として掲げています。1人ひとりが認め合い・助け合う広がり「縦割り」、「支え手・受け手」、「世代・分野」のスキマを超えて、つながり、1人ひとりが幸せを感じられるウェルビーイングな社会を目指します。

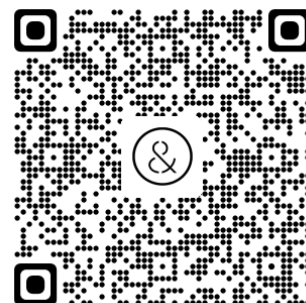
みんなの+1歩をつなぐアクション



いわきの地域共生



地域共生社会について



IWAKI & MEETING